

コロナ禍における法文学部の 被災記録の収集と保存X

— 2023年度学生を対象としたアンケート調査の単純集計結果 —

Collection and Preservation of Records of Disaster Experiences
of Students, Faculty and Staff in the Faculty of Law and Letters,
Ehime University during the Coronavirus Pandemic(X):
A summary statistics of a questionnaire survey of students in
Academic Year 2023-24

青木理奈・鈴木 静・福井秀樹
小佐井良太（福岡大学法学部）・石坂晋哉・太田響子
池 貞姫・十河宏行・中川未来

1. はじめに

2020年度から、本プロジェクトでは新型コロナウイルスの感染拡大に伴う愛媛大学法文学部学生への影響について、アンケート等を通じて具体的な被害や葛藤、適応するプロセスの一端を明らかにしてきた。2023年11月末現在、新型コロナウイルス感染症とインフルエンザとの同時流行、同時感染が想定されるようになり、新たな局面を迎えている。2023年度の大きな変化は、5月8日から新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことであり、愛媛大学はコロナ禍前のような対面授業に戻っている。とはいえものの、換気や手指消毒を行うことが日常化し、学生や教職員も自身の判断でマスク着用を行うなどしている。

コロナ禍前の授業提供体制に戻り、今年はコロナ禍初期である2020年に入学してきた学生が最終年度の学年を迎えている。通常通り、今年の4回生も就職活動、卒業論文に取り組んでいる。長引いたコロナ禍で学生生活のほとんどを制限された状態で過ごした4回生は、どのような不安や葛藤を抱えているのだろうか。そのことはコロナ禍とどのような関係にあるのだろうか。

本プロジェクトは、今回の新型コロナウイルスのような全世界的規模で起きている災厄について、記録や教訓を収集、保存し、継承していくことを目的としている。今回のような長期化するコロナ禍において、時系列で保存し、継続的に記録・収集することが重要であると考えている。これまで愛媛大学法文学部の学生を対象とし、アンケートを2020年度から継続して実施し、学生手記も3年間分収集・分析¹⁾²⁾³⁾、さらに座談会⁴⁾⁵⁾⁶⁾も3年間開催してきた。

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことに伴い、実質、コロナ禍以前の生活に戻っている今、全学生ではなく、来春から社会人となる学生が多い4回生のみに学生生活を振り返ってもらい、長期にわたる学生生活への様々な被害や影響を把握することが本稿の目的である。そして、4回生のコロナ禍における大学生生活の記録として保存し、その一部につき公表する。

2. 新型コロナウイルス感染拡大期における愛媛大学法文学部での授業実施について

(1) 愛媛県における感染状況と愛媛大学の対応

新型コロナウイルスの感染拡大が始まって4年目を迎えた2023年度は、WHO が緊急事態の終了を宣言し、国内でも5類移行に伴う感染者数の報告が終了し、長く続いたパンデミックが収束化している。しかし、新型コロナウイルスが根絶されてはならず、今後も感染拡大が起こるリスクは残っている。今年度は、インフルエンザ感染者数も増え、インフルエンザと新型コロナの同時感染も懸念されており、感染拡大の傾向は今も続いているといえる。一方で、「With Corona (ウィズコロナ)」の日常生活という観点から、昨年度からは県民の行動制限は緩められ、今年度からは、コロナ禍前のイベントも開催し、以前の日常が戻っている傾向である。

愛媛大学でも、5月8日(月)に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことをうけて、BCP（事業継続計画）ステージは、警戒レベルが最も低い「ライトイエロー」となり、感染者数の報告も終了しているが、引き続き基本的な感染防止対策は継続している状況である。

(2) 愛媛大学法文学部4回生の学生数

2023年12月現在の愛媛大学法文学部4回生数は、454人、4回生のコース内訳は、昼間主法学・政策学履修コースが115人、昼間主人文学履修コースが138人、夜間主法学・政策学履修コースが58人、夜間主人文学履修コースが75人、グローバル・スタディーズ履修コースが68人（昼間主のみ）である。留学生は3人である。

(3) 愛媛大学法文学部における授業実施状況

愛媛大学法文学部では、2020年度前学期の第1クォーターから第2クォーター期間の授業形態は、遠隔授業を実施し、対面授業は行わなかった。2020年度後期の第3クォーター期間から第4クォーター期間の授業形態は、対面授業を可能な限り開講するとともに、遠隔授業も実施された。

2021年度前学期の第1クォーター期間から第2クォーター期間の授業形態は、「遠隔授業を積極的に行いつつも、感染防御対策を徹底しながら、対面授業も可能な限り開講」することとしていたが、4月22日から「(特例的な授業を除き) 遠隔授業のみ」に変更された。この結果、演習系科目を中心に対面授業とし、段階的に講義系科目も対面授業に拡大した。後学期の第3クォーター期間(9月24日～12月3日)は「遠隔授業を基本とするが、徹底した感染防御対策のもと対面授業も可能な限り開講」とされ、第4クォーター期間(12月4日～3月31日)は「徹底した感染防御対策のもと対面授業を実施」された。

2022年度前期からは、一部(共通教育「学問分野別科目」)を除き、原則対面授業となっており、2023年度も続いている。

3. 対象と方法

本アンケート調査の対象者は、法文学部の4年生であり、調査期間は、2023年11月6日～11月24日である。

調査方法は、インターネットでの無記名自記式アンケートを採用した。教育支援課法文学部チームから法文学部の学生へ一斉送信による周知を行った。集まった回答は、125件であった。以下の2つの場合、すなわち、1. 自由記述を含め、回答が全て同じもの、2. 自由記述は未記入だが、他の回答が全て同じであり、かつ、回答送信時間が近いもの(5分以内)は重複とみなし削除対象であったが、該当するものはなく、125件のデータ全てが有効回答であった。

アンケート内容は、(1) 回答者の属性について7項目、(2) 今年度の学修面、就職活動、課外活動、生活面について11項目、(3) コロナ禍初期2020年4月からの4年間を振り返った上での学修面、課外活動面、生活面、体調面について14項目、(4) これからの大学対応や社会人としての不安について2項目、合計34項目から構成されている。アンケート項目は、回答を必須とする選択方式、回答を任意とする選択方式、および、自由記述欄からなっている。過去3年間の結果を考慮しつつ、ほとんどの質問はコロナ禍初期に入学してきた4年生用として、今年度新設した質問となっている。アンケートを資料1に示す。

4. 倫理的配慮

本調査において、対象者に対する倫理的配慮を以下のようにした。

- (1) 不必要な負荷や負担への配慮：回答は任意でありかつ匿名である。対象者に不必要な負荷や負担は生じない。
- (2) 個人のプライバシー保護への配慮：匿名で回答する。アンケート結果についても守秘義務を厳守し、個人のプライバシーを厳重に保護する。
- (3) 協力拒否への不利益への配慮：回答は任意であり、回答後に対象者が回答内容について削除を求めた場合には、即座に応じる。協力拒否への不利益は生じない。
- (4) 調査協力への理解や同意：担当教員からの説明およびアンケート冒頭に調査協力への理解を求める。

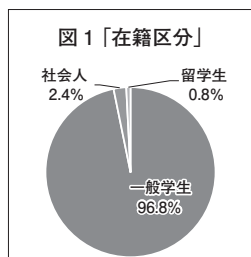
その他、アンケート作成において、個人情報が含まれないようにした。参加者には調査の趣旨が十分伝わるように冒頭に説明を書いた上で、参加は任意であることを説明し、アンケートに回答し送信された時点で同意とした。

5. 結 果

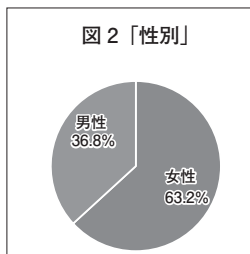
本調査は、(1) 回答者の属性、(2) 今年度の学生生活について、(3) 4年間の学生生活について、(4) 未来について、学生の状況や考えを把握した。

(1) 回答者の属性

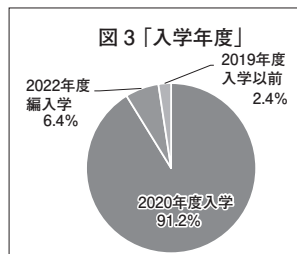
- 1) 回答者125人の在籍区分（身分）は、「一般学生」121人（96.8%）、「社会人」3人（2.4%）、「留学生」1人（0.8%）である（図1）。



- 2) 性別は、「男性」46人（36.8%）、「女性」79人（63.2%）、「その他」0人である（図2）。

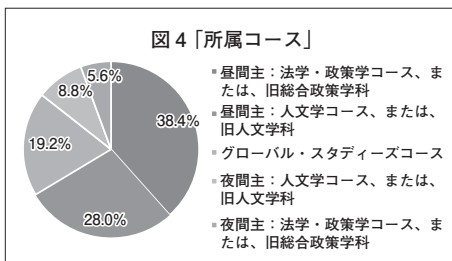


- 3) 入学年度は、「2020年度（現4回生）」114人（91.2%）、「2022年度編入学（3年次編入生）」8人（6.4%）、「2019年度入学以前」3

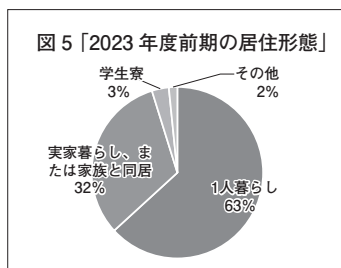


人（2.4％）である（図3）。

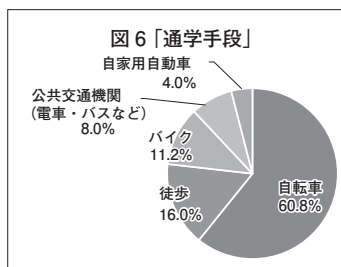
- 4）所属コースは、「昼間主：法学・政策学コース、または、旧総合政策学科」48人（38.4％）、「夜間主：法学・政策学コース、または、旧総合政策学科」7人（5.6％）、「昼間主：人文学コース、または、旧人文学科」35人（28％）、「夜間主：人文学コースまたは、旧人文学科」11人（8.8％）、「昼間主：グローバル・スタディーズコース」24人（19.2％）である（図4）。



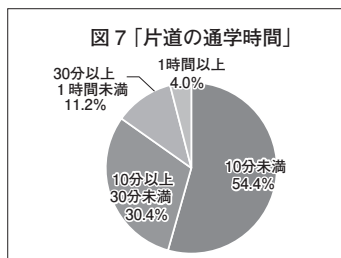
- 5）2023年度前期の居住形態は、「1人暮らし」79人（63.2％）、「実家暮らし、または家族と同居」40人（32％）、「学生寮」4人（3.2％）、「その他」2人（1.6％）である（図5）。



- 6）最もよく利用する通学の手段は、「公共交通機関（電車・バスなど）」10人（8％）、「徒歩」20人（16％）、「自転車」76人（60.8％）、「バイク」14人（11.2％）、「その他（自家用自動車）」5人（4％）である（図6）。



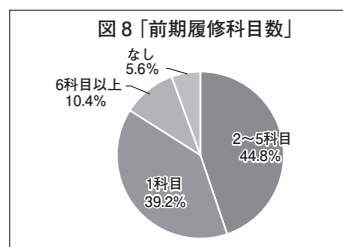
- 7）片道の通学時間は、「10分未満」68人（54.4％）、「10分以上30分未満」38人（30.4％）、「30分以上～1時間未満」14人（11.2％）、「1時間以上」5人（4％）である（図7）。



(2) 今年度（前期、1Q/2Q）の学生生活について

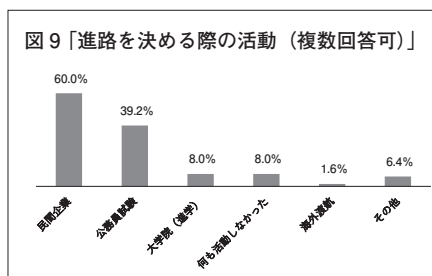
1) 前期履修科目数

「今年度前期（1Q/2Q）、授業は何科目とりましたか」の質問に対し、「1科目」49人（39.2%）、「2～5科目」56人（44.8%）、「6科目以上」13人（10.4%）、「なし」7人（5.6%）である（図8）。



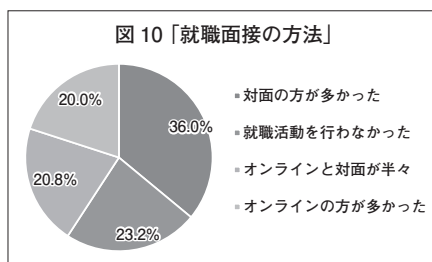
2) 進路を決める際の活動について

「卒業後の進路を決めるにあたって、実際にどのような活動を行いましたか。次の選択肢から選んでください。（複数回答可）」の質問に対し、「民間企業の採用試験を受けた」75人（60.0%）が一番多く、次いで、「公務員試験を受けた」49人（39.2%）、「大学院（進学）の受験をした、あるいは準備活動をした」10人（8.0%）、「何も活動しなかった」10人（8.0%）、「海外渡航（留学やワーキングホリデー等）するための準備活動をした」2人（1.6%）、「その他」8人（6.4%）である（図9）。なお、選択肢にあったが、「大学院以外の専門学校等の受験をした」、「家業を継ぐことにした」、「起業する準備をした」はいずれも0人だった。



3) 就職面接の方法

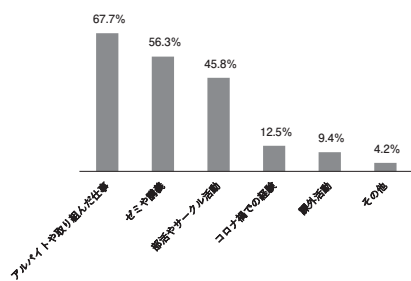
「公務員を含む就職活動を行った方にお聞きます。就職面接は、どのような方法でしたか。」の質問に対し、「対面の方が多かった」45人（36.0%）が一番多く、次いで、「オンラインと対面が半々」26人（20.8%）、「オンラインの方が多かった」25人（20.0%）と続いた（図10）。



4) 就職面接でのガクチカ話

『ガクチカ』（学生時代に力を入れたこと）として、どのようなことを話したか。（複数回答可）」の質問に対し、就職活動（面接）をした96名の回答として、一番多かったものが、「アルバイトや取り組んできた仕事の内容」65人（67.7%）であり、次いで「ゼミや講義内で取り組んだ内容」54人（56.3%）、「部活やサークル活動の内容」44人（45.8%）、「コロナ禍で経験した内容」12人（12.5%）、「海外研修など課外活動で取り組んだ内容」9人（9.4%）、「その他」4人（4.2%）である（図11）。

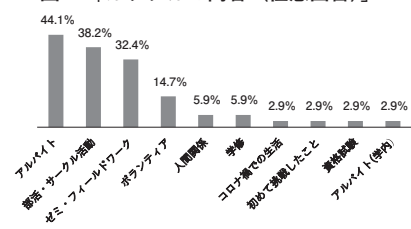
図 11 「面接でのガクチカ話（複数回答可）」



5) ガクチカの具体的内容

「ガクチカとして話した内容を具体的に教えてください。（自由記述）（任意回答）」の質問に対し、34人が回答、52件の具体的な記述があった。分類した結果、図12の通りであり、具体的な記述内容は、資料2.に示す。

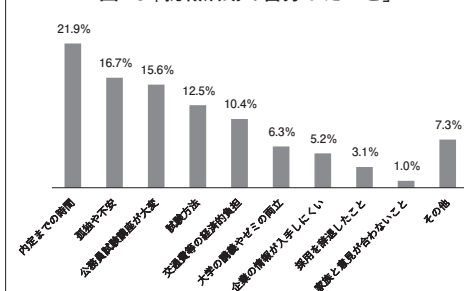
図 12 「ガクチカの内容（任意回答）」



6) 就職活動で苦勞したこと

「就職活動で、一番苦勞したこと（困ったこと）は、どのようなことでしたか。（一つだけお答えください）」の質問に対し、一番多かった回答は、「内定や内々定が決定するまで長くかかったこと」21人（21.9%）が最も多く、次いで、「就職期間中に相談できる人がほとんどおらず孤独になったり不安になったりしたこと」16人（16.7%）、「公務員試験講

図 13 「就職活動で苦勞したこと」

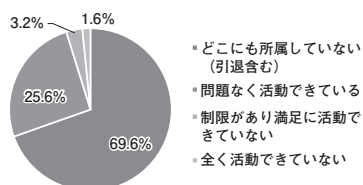


座が大変だったこと」15人（15.6%）、「オンライン面接やグループディスカッション等の試験方法」12人（12.5%）、「就職説明会や就職試験会場までの交通費等の経済的負担」10人（10.4%）、「大学の講義やゼミとの両立を図ること」6人（6.3%）、「希望する職種や企業の情報が入手しにくいこと」5人（5.2%）、「内々定が複数とれ、企業や自治体に採用を辞退したこと」3人（3.1%）、「両親など家族と意見が合わないこと」1人（1.0%）、「その他」7人（7.3%）である（図13）。

7) 今年度の部活・サークルの活動状況

「今年度の部活・サークルの活発化についてお聞きます。」の質問で、部活・サークル活動が活発化したことについて聞いた。一番多かった回答は、「どこにも所属していない（引退含む）」87人（69.6%）、次いで、「問題なく活動できている」32人（25.6%）、「制限があり満足に活動できていない」4人（3.2%）、「全く活動できていない」2人（1.6%）である（図14）。

図 14「今年度の部活・サークルの活動状況」



8) 今年度の課外活動状況

「課外活動（ゼミのフィールドワーク等）についてお聞きます。昨年までと比べて、あなたが参加した課外活動はコロナ禍の行動制限なく行うことができましたか。」の質問に対し、一番多かった回答は、「課外活動に参加しなかった」60人（48%）、次いで、「ほとんど制限なく実施することができた」36人（28.8%）、「まったく制限なく実施することができた」19人（15.2%）、「制限が多かったが実施することはできた」7人（5.6%）、「制限が多く実施することができなかった」3人（2.4%）である（図15）。

図 15「今年度の課外活動状況」

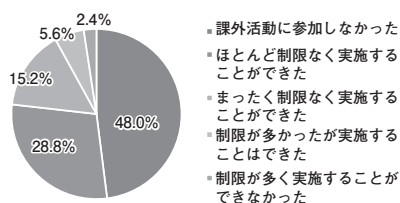
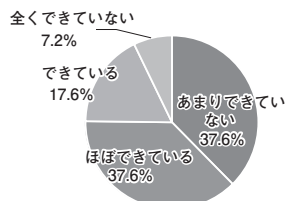


図 16「規則正しい生活ができているか」

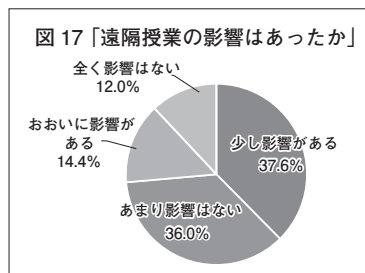


9) 規則正しい生活ができているか

「あなたにとって規則正しい生活は出来ていますか」の質問に対し、一番多かった回答は、「あまりできていない」47人（37.6%）と「ほぼできている」47人（37.6%）、次いで、「できている」22人（17.6%）、「全くできていない」9人（7.2%）である（図16）。

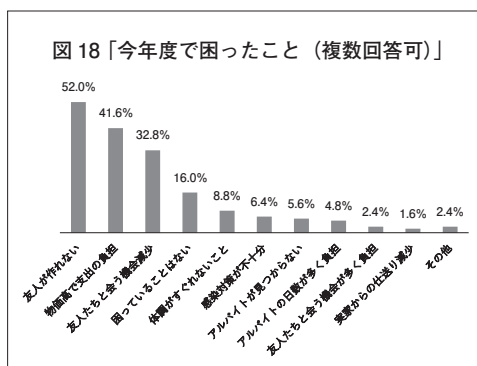
10) 遠隔授業の影響はあったか

「上記1の回答は、数年続いた遠隔授業が多かった期間の影響はありますか。どの程度、影響がありますか。」の質問に対し、一番多かった回答は、「少し影響がある」47人（37.6%）、次いで、「あまり影響はない」45人（36.0%）、「おおいに影響がある」18人（14.4%）、「全く影響はない」15人（12.0%）である（図17）。



11) 今年度で困ったこと（複数回答可）

「今年度、学修以外の大学生活や大学生活以外で、困ったことはありますか。（複数回答可）」の質問に対し、一番多かった回答は、「結局、友人が作れない、作りにくかったこと」65人（52.0%）、次いで、「物価高で支出が増えて負担であること」52人（41.6%）、「友人や親しい人たちと会う機会が少なくなったこと」41人（32.8%）、「困っていることはない」20人（16.0%）、「体調がすぐれないこと」11人（8.8%）、「マスク等の感染対策について周りが不十分だと感じること」8人（6.4%）、「アルバイトを探しているが見つからない」7人（5.6%）、「アルバイトに入る日数が多く負担であること」6人（4.8%）、「友人や親しい人たちと会う機会が多く負担であること」3人（2.4%）、「実家からの仕送りが減少したこと」2人（1.6%）、「その他」3人（2.4%）である（図18）。

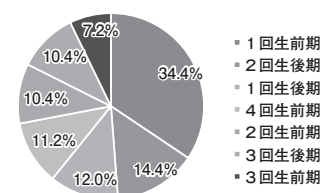


(3) 4年間の学生生活について

1) 一番成績が良かった時期

「1回生前期から4回生前期までで一番成績が良かった時はいつですか。(単位数や秀優良可の評価、GPAを判断基準にしてください)」の質問に対し、一番多かった回答は、「1回生前期」43人(34.4%)、次いで、「2回生後期」18人(14.4%)、「1回生後期」15人(12.0%)、「4回生前期」14人(11.2%)、「2回生前期」13人(10.4%)、「3回生後期」13人(10.4%)、「3回生前期」9人(7.2%)である(図19)。

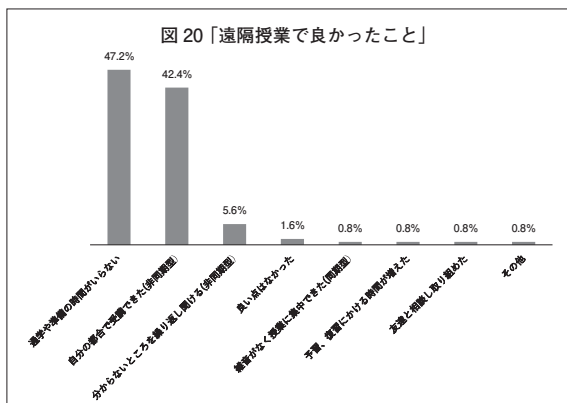
図 19 「一番成績が良かった時期」



2) 遠隔授業で良かったこと

「この4年間で授業は「遠隔」と「対面」を経験されたかと思いますが、約4年間(編入生は約2年間)の遠隔授業で一番良かったことを教えてください。(一つだけお答えください)」の質問に対し、一番多かった回答は、「通学や準備の時間がいない」59人(47.2%)、次いで、「自分の都合で受講できた(非同期型)」53人(42.4%)、「分からないところを繰り返し聞ける(非同期型)」7人(5.6%)、「良い点はなかった」2人(1.6%)、「雑音がなく授業に集中できた(同期型)」1人(0.8%)、「予習、復習にかかる時間が増えた」1人(0.8%)、「友達と相談し取り組めた」1人(0.8%)、「その他」1人(0.8%)である(図20)。

図 20 「遠隔授業で良かったこと」

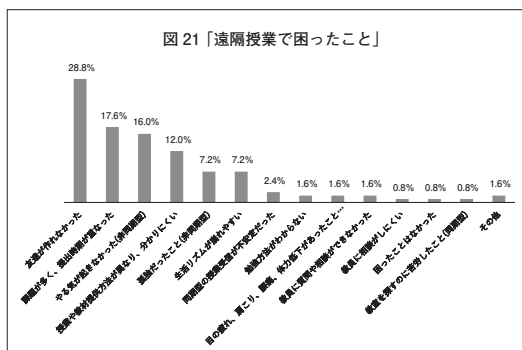


3) 遠隔授業で困ったこと

「約4年間(編入生は約2年間)の遠隔授業で一番困ったことはどのようなことですか。(一つだけお答えください)」の質問に対し、一番多かった回答は、「友達が作れなかった」36人(28.8%)、次いで、「課題が多く、提出時期が重なっ

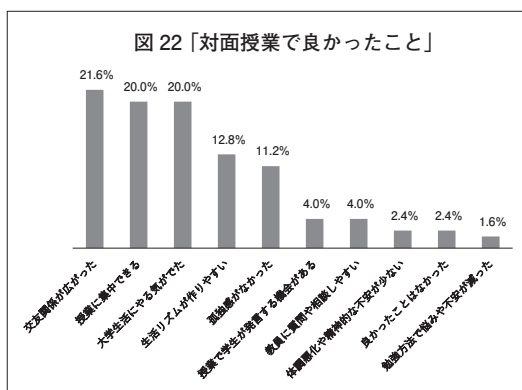
た」22人（17.6％）、「やる気が起きなかった（非同期型）」20人（16.0％）、「授業や教材提供方法が異なり、分かりにくい」15人（12.0％）、「孤独だったこと（非同期型）」9人（7.2％）、「生活リズムが崩れやすい」9人（7.2％）、「同期型の授業受信が不安

定だった」3人（2.4％）、「勉強方法がわからない」2人（1.6％）、「目の疲れ、肩こり、腰痛、体力低下があったこと（非同期型）」2人（1.6％）、「教員に質問や相談ができなかった」2人（1.6％）、「教員に相談がしにくい」1人（0.8％）、「困ったことはなかった」1人（0.8％）、「教室を探すのに苦労したこと（同期型）」1人（0.8％）、「その他」2人（1.6％）である（図21）。



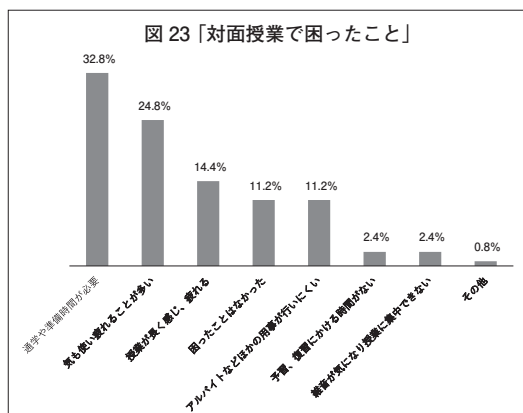
4）対面授業で良かったこと

「約4年間（編入生は約2年間）の対面授業で一番良かったことはどのようなことですか。（一つだけお答えください）」の質問に対し、一番多かった回答は、「交友関係が広がった」27人（21.6％）、次いで、「授業に集中できる」25人（20.0％）、「大学生活にやる気がでた」25人（20.0％）、「生活リズムが作りやすい」16人（12.8％）、「孤独感がなかった」14人（11.2％）、「授業で学生が発言する機会がある」5人（4.0％）、「教員に質問や相談しやすい」5人（4.0％）、「体調悪化や精神的な不安が少ない」3人（2.4％）、「良かったことはなかった」3人（2.4％）、「勉強方法で悩みや不安が減った」2人（1.6％）である（図22）。



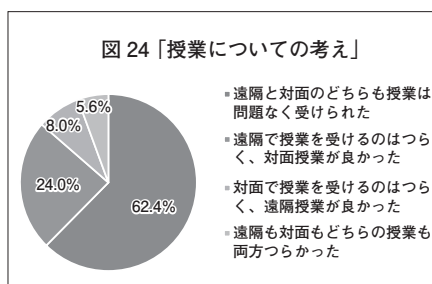
5) 対面授業で困ったこと

「4年間（編入生は約2年間）の対面授業で一番困ったことはどのようなことですか。（一つだけお答えください）」の質問に対し、一番多かった回答は、「通学や準備時間が必要」41人（32.8%）、次いで、「気も使い疲れることが多い」31人（24.8%）、「授業が長く感じ、疲れる」18人（14.4%）、「困ったことはなかった」14人（11.2%）、「アルバイトなどほかの用事が行いにくい」14人（11.2%）、「予習、復習にかける時間がない」3人（2.4%）、「雑音が気になり授業に集中できない」3人（2.4%）、「その他」1人（0.8%）である（図23）。



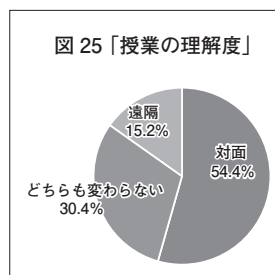
6) 授業についての考え

「約4年間（編入生は約2年間）を振り返り遠隔授業や対面授業について、あなたの考えに近いものを教えてください。」の質問に対し、一番多かった回答は「遠隔と対面のどちらも授業は問題なく受けられた」78人（62.4%）、次いで、「遠隔で授業を受けるのはつらく、対面授業が良かった」30人（24.0%）、「対面で授業を受けるのはつらく、遠隔授業が良かった」10人（8.0%）、「遠隔も対面もどちらの授業も両方つらかった」7人（5.6%）である（図24）。



7) 授業の理解度

「約4年間（編入生は約2年間）を振り返り、授業の理解度は、遠隔と対面のどちらの方が高かったで

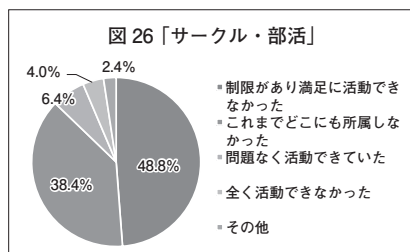


すか。」の質問に対し、一番多かった回答は、「対面」68人（54.4%）、次いで、「どちらも変わらない」38人（30.4%）、「遠隔」19人（15.2%）である（図25）。

8) サークル・部活

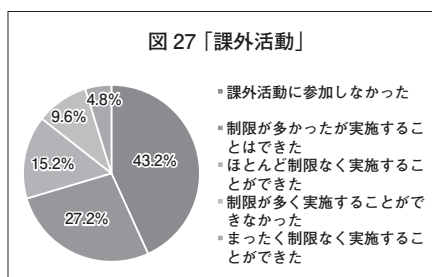
「あなたが、これまで所属していたサークルや部活についてお聞きます。

コロナ禍での影響による活動制限について教えてください。」の質問に対し、一番多かった回答は、「制限があり満足に活動できなかった」61人（48.8%）、次いで、「これまでどこにも所属しなかった」48人（38.4%）、「問題なく活動できていた」8人（6.4%）、「全く活動できなかった」5人（4.0%）、「その他」3人（2.4%）である（図26）。



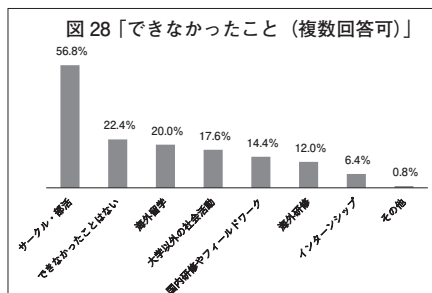
9) 課外活動

「これまでの課外活動（ゼミのフィールドワーク等）についてお聞きます。あなたが参加した課外活動はコロナ禍の行動制限なく行うことができましたか。」の質問に対し、一番多かった回答は、「課外活動に参加しなかった」54人（43.2%）、次いで、「制限が多かったが実施することはできた」34人（27.2%）、「ほとんど制限なく実施することができた」19人（15.2%）、「制限が多く実施することができなかった」12人（9.6%）、「まったく制限なく実施することができた」6人（4.8%）である（図27）。



10) できなかったこと（複数回答可）

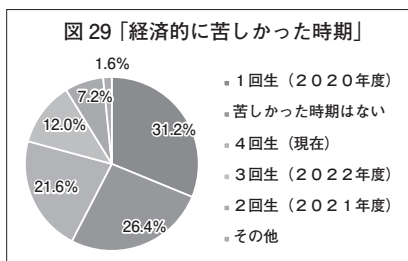
「高校生の時や入学当初に希望していたことで、コロナ禍の行動制限のために、あなたができなかったことはありますか。（複数回答可）」の質問に対し、一番多かった回答は、「サークル・部活」71人（56.8%）、



次いで、「できなかったことはない」28人（22.4%）、「海外留学」25人（20.0%）、「大学以外の社会活動」22人（17.6%）、「国内研修やフィールドワーク」18人（14.4%）、「海外研修」15人（12.0%）、「インターンシップ」8人（6.4%）、「その他」1人（0.8%）である（図28）。

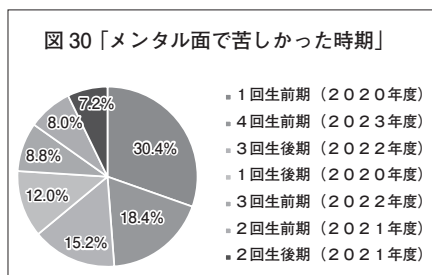
11) 経済的に苦しかった時期

「約4年間（編入生は約2年間）のあなたの経済的な状況についてお聞きします。あなたが大学生活を送るのに、一番苦しかったり辛かったりした時期を教えてください。（一つだけお答えください）」の質問に対し、一番多かった回答は、「1回生（2020年度）」39人（31.2%）、次いで、「苦しかった時期はない」33人（26.4%）、「4回生（現在）」27人（21.6%）、「3回生（2022年度）」15人（12.0%）、「2回生（2021年度）」9人（7.2%）、「その他」2人（1.6%）である（図29）。



12) メンタル面で苦しかった時期

「約4年間（編入生は約2年間）のあなたのメンタルヘルスについてお聞きします。大学入学時からこれまでで、一番不安定だと感じた時期はいつでしたか。（一つだけお答えください）」の質問に対し、一番多かった回答は、「1回生前期（2020年度）」38人（30.4%）、次いで、「4回生前期（2023年度）」23人（18.4%）、「3回生後期（2022年度）」19人（15.2%）、「1回生後期（2020年度）」15人（12.0%）、「3回生前期（2022年度）」11人（8.8%）、「2回生前期（2021年度）」10人（8.0%）、「2回生後期（2021年度）」9人（7.2%）である（図30）。

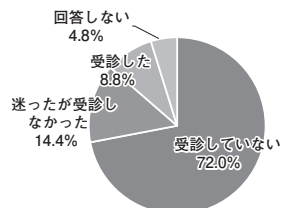


13) 医療機関やカウンセリングの受診

「長期化するコロナ禍でのメンタル不調により、2020年度以降から現在までで、医療機関やカウンセリングに行ったことはありますか。」の質問に対し、一番多

かった回答は、「受診していない」90人（72.0%）、次いで、「迷ったが受診しなかった」18人（14.4%）、「受診した」11人（8.8%）、「回答しない」6人（4.8%）である（図31）。

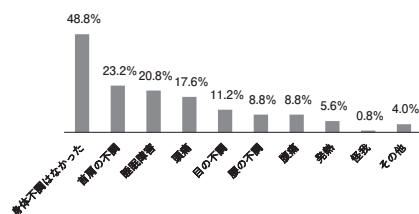
図 31「医療機関やカウンセリングの受診」



14) 身体の不調（複数回答可）

「長期化するコロナ禍での身体への不調についてお聞きます。なお、新型コロナウイルス感染症は除きます。（複数回答可）」の質問に対し、一番多かった回答は、「身体不調はなかった」61人（48.8%）、次いで、「首肩の不調」29人（23.2%）、「睡眠障害」26人（20.8%）、「頭痛」22人（17.6%）、「目の不調」14人（11.2%）、「腰の不調」11人（8.8%）、「腰痛」11人（8.8%）、「発熱」7人（5.6%）、「怪我」1人（0.8%）、「その他」5人（4.0%）である（図32）。

図 32「身体の不調（複数回答可）」

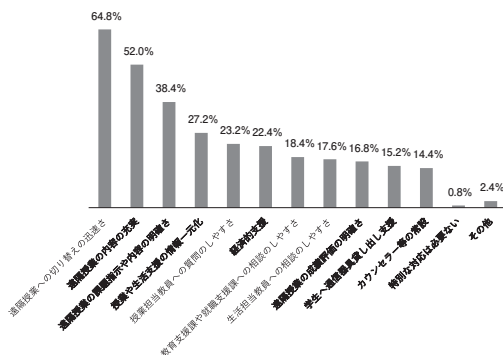


(4) 将来についての不安や考え

1) 災害時に求める大学対応について（複数回答可）

「今後、対面授業が行えないような災害や不測の事態が起きた場合、大学はどのように対応したらよいと思いますか。（複数回答可）」の質問に対し、一番多かった回答は、「遠隔授業への切り替えの迅速さ」81人（64.8%）、次いで、「遠隔授業の内容の充実」65人（52.0%）、「遠隔授業の課題指示や内容の明確さ」48人（38.4%）、「授業や生活支援の情報一元化」34人（27.2%）、「遠隔授業の授業料の軽減」23.2%、「授業や生活支援の情報のしやすさ」22.4%、「遠隔授業の授業料の軽減のしやすさ」18.4%、「遠隔授業の授業料の軽減のしやすさ」17.6%、「遠隔授業の授業料の軽減のしやすさ」16.8%、「遠隔授業の授業料の軽減のしやすさ」15.2%、「遠隔授業の授業料の軽減のしやすさ」14.4%、「遠隔授業の授業料の軽減のしやすさ」0.8%、「その他」2.4%。

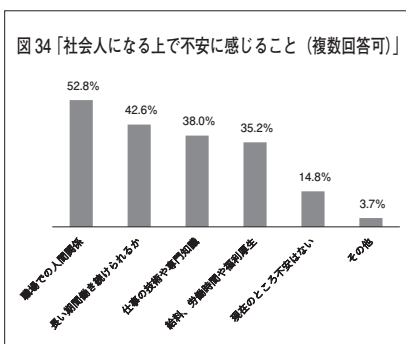
図 33「災害時に求める大学対応について（複数回答可）」



(27.2%)、「授業担当教員への質問のしやすさ」29人 (23.2%)、「経済的支援」28人 (22.4%)、「教育支援課や就職支援課への相談のしやすさ」23人 (18.4%)、「生活担当教員への相談のしやすさ」22人 (17.6%)、「遠隔授業の成績評価の明確さ」21人 (16.8%)、「学生へ通信器具貸し出し支援」19人 (15.2%)、「カウンセラー等の常設」18人 (14.4%)、「特別な対応は必要ない」1人 (0.8%)、「その他」3人 (2.4%) である (図33)。

2) 社会人になる上で不安に感じること (複数回答可)

「卒業後、就職する方にお聞きします。社会人となる来年度以降のことを考え、現在、不安に感じることはありますか。(複数回答可)」の質問に対し、一番多かった回答は、「職場での人間関係」57人 (52.8%)、次いで、「長い期間働き続けられるか」46人 (42.6%)、「仕事の技術や専門知識」41人 (38.0%)、「給料、労働時間や福利厚生」38人 (35.2%)、「現在のところ不安はない」16人 (14.8%)、「その他」4人 (3.7%) である (図34)。



6. 考 察

本調査結果は、長く続くコロナ禍において、大学生がどのように学修・生活しているのか、また、大学は、今後どのような取り組みを進めてゆく必要があるのか、数多くの示唆を与えるものとなっている。

本プロジェクトは、2020年から2022年の3年間、コロナ禍における法文学部の学生の意識や生活を調査してきた。一連の調査から、愛媛大学法文学部における学生のコロナ禍への対応は、「コロナ疲れ」を感じつつも、学修方法や日常生活の過ごし方を自ら工夫しておおむね乗り切り、対面授業を展開する大学生活に順応してきた／いる学生が多数を占める一方、メンタルヘルスに困難を感じている学生が、引き続き一定数いることを指摘してきた。

本稿では、(1) 現在のこと「今年度の大学生活について」、(2) 過去のこと「コロナ禍初期2020年4月からの4年間を振り返った大学生活について」、(3) 未来のこと「これからの大学対応や社会人になる上で思うこと」について、全体の傾向を考察していく。

(1) 今年度の大学生生活について

1) 履修科目数や授業形態について

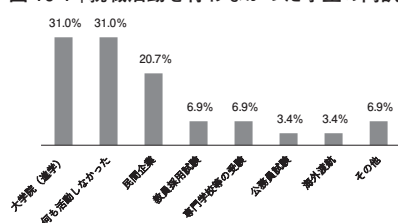
授業の履修科目数については、2～5科目が44.8%と一番多く、次いで1科目が39.2%だった。法文学部のカリキュラム上、4回生の多くは、演習科目を除き卒業に必要とされる単位を取得し終えている者が多い。アンケートでは、いわゆる演習科目のみを履修する学生と、加えて専門科目を若干履修している者が9割近くになったのは予想通りの結果であった。

2) 卒業後の進路に向けた活動について

4回生となると、在学中に大半の学生が卒業後の進路を決める。進路を決めるための活動として「民間企業の採用試験を受けた」学生が60%、公務員試験を受けた学生が39.2%と、就職活動をした学生が多くみられた。その就職活動での面接方法を問うたところ、「対面が多かった（36%）」、「オンラインと対面が半々（20.8%）」、「オンラインが多かった（20.0%）」という結果となり、対面での面接が一番多いとはいえ、オンライン面接がある一定割合の会社では定着している現実があることが示された。なお、「就職活動を行わなかった」29人（23.2%）が2番目に多い。就職活動を行わなかった学生の進路について、集計をしたところ10－1のような結果となっており、大学院進学が31.0%を占めるが、「何もしなかった」者も31.0%にのぼる。なお、なかには民間企業や公務員試験を受けている学生がいる。

これらは、一次選考となる筆記試験は受けたけれど、二次選考以降の面接試験まで進めることができなかったため、面接方法を問う質問に答えられなかった可能性もあると分析している。いずれにしても、全体で8%ほどの学生が、進路を決めるための活動をしていないという現状は、慎重に見ていく必要がある。

図 10-1 「就職活動を行わなかった学生の内訳」



就職活動で面接を経験した学生は「ガクチカ（学生時代に力を入れたこと）」として、「アルバイトや取り組んできた仕事の内容（67.7%）」が7割近くと一番多く、「ゼミや講義内で取り組んだ内容（56.3%）」、「部活やサークル活動の内容（45.8%）」よりも多い結果となったのは、コロナ禍で授業のグループワークや、課外活動、部活・サークル活動が制限された学年ならではの結果だと言える。自由記述欄での具体的な記載の中には、ボランティア活動に関して書かれている内容が5件あり、そのほとんどが大学内におけるボランティア活動となっている。制限された大学生活のなかで、

取り組めること、できることを探し、行動した学生が一定数いることがうかがえる。

就職活動について、一番苦労したことは、「内定や内々定が決定するまで長くかかったこと（21.9%）」、そして「就職活動中に相談できる人がほとんどおらず孤独になった（16.7%）」と、メンタル面で苦労したと思った学生が、公務員試験講座の大変さや、面接等の対策、そして経済的負担と物理的に苦労した学生より多かった。これらは、4年間で一番不安だった時期について、一番多かったのはコロナ初期の2020年度1回生前期（30.4%）となっているが、二番目に不安が多かった時期について、2023年度4回生前期（18.4%）という結果となっており、就活でのメンタルヘルス支援が必要とされるだろう。

3）現在の生活に対するコロナ禍の影響の有無

現在の生活面で、今現在の生活リズムとこれまでのコロナ禍との影響をクロス集計した。その結果、規則正しい生活があまりできていないと答えた学生は、数年続いたコロナ禍の影響が「少しあった」と回答している者が最も多く、現在、規則正しい生活ができていると答えている学生は、コロナ禍の影響は「あまり関係ない」と回答している学生が最も多かった。本プロジェクト・チームによる過去のアンケート調査、学生手記収集¹⁾²⁾³⁾および座談会実施⁴⁾⁵⁾⁶⁾を通じて得られた情報に照らしてみると、現在も規則正しい生活があまりできていないと答えた学生は、その原因として、1回生からの遠隔授業等で、生活リズムが崩れた影響があったのではないかと感じている可能性があることを指摘しておく。

表1. 規則正しい生活とコロナ禍の影響との関係

規則正しい生活	数年続いたコロナ禍の影響				総計
	あまり影響はない	おおいに影響がある	少し影響がある	全く影響はない	
あまりできていない	12	7	23	5	47
できている	10	3	2	7	22
ほぼできている	20	4	20	3	47
全くできていない	3	4	2		9
総計	45	18	47	15	125

学生の現在の生活状況や困りごとが、コロナ禍の影響に起因すると考えている傾向は、他の回答にも現れている。今年度の生活で困ったこととして5割以上の学生が「結局、友人が作れない、作りにくかったこと（52.0%）」と回答している。2020年度（大学入学年度）時に、友人が作りにくかった学生は、その後も友人を作りにくかったと感じている。さらに、コロナ禍とは関係なく、ここ数年の変化も学生の生活に影響を及ぼしている。その一例が、今年度の生活で困ったこととして、「物価高で支出が増えて負担である（41.6%）」であった。

(2) コロナ禍初期（2020年）からの4年間を振り返った大学生生活について

4回生を対象としていることから、アンケートではコロナ禍初期からの約4年間（1回生から4回生の前期まで）の生活や気持ちを聞いている。

1) 遠隔授業のデメリットとしての友達のつくりにくさ

在学期間中に、最も成績が良かった時期は、ほぼ全面的に遠隔授業だった「一回生前期（34.4%）」となっている。遠隔授業と対面授業の両方を経験してきた4回生が、それぞれの利点と困難さについて振り返った結果、過去3年間のアンケート結果の傾向と大きく変わらない結果となった。

遠隔授業の良かった点として、通学時間や通学のための準備がなかったこと、それから自分の都合に合わせて好きな時間に受講できたことの2項目を挙げる者が多い。実に9割近くの学生が選択しており、今まで調査してきた遠隔授業の利点と同様の結果を示した。遠隔授業で困ったこと（困難さ）についても、これまでのアンケート調査と同様の傾向を示し、今回も「課題が多く、複数の課題提出時期が重なる」、「非同期の授業は後回しとなりやる気がおこらない」、「授業方法や教材提供方法が異なり分かりにくい」の項目を、半数近くの学生が選択していた。

ただ、遠隔授業で困ったことについて一番多かった項目は、今回から新たに加えた「友達がつくれなかった、つくりにくかったこと」を選択する者が最も多く、コロナ禍初期を大学で経験している4回生にとっての困難は、「友人づくり」だったことがうかがえる。それらは、対面授業での利点でも確認できる。対面授業で一番良かった点として「友人がつくりやすいこと、交友関係が広がったこと（21.6%）」の回答が最も多かった。ほか、「授業に集中できる」、「大学生活にやる気が出る」等も昨年同様、上位となっている。また、今回から新たに加えた「大学に通学するので、生活リズムが作りやすい（12.8%）」を選択するものも想定以上に多く、対面授業では生活リズムが作りやすいという利点を学生が感じていることを確認できた。

一方、対面授業で困ったことを問う回答では、昨年度の回答方式（複数回答可）と今年度の回答方式（一つだけ回答）に違いがあったことも一因となったのか、上位の結果が異なる傾向を示した。昨年度調査では、「対面授業が長く感じ、疲れる（46.6%）」といった回答が最も多かったが、今年度調査では、「通学にかかる時間、通学準備の時間が必要になった（32.8%）」とする回答が最も多く、その次に「遠隔授業から対面授業に切り替わった時に慣れず、気も使い疲れることが多かったこと（24.8%）」、「授業が長く感じ、疲れること（14.4%）」、「困ったことはなかった（11.2%）」と続いた。入学して初めての授業が遠隔授業だった4回生にとって、待ち望んできた対面授業では、授業についての不満はほぼなく、それよりも、通学時間の

負担や対人関係の気疲れといったことへの不満の方が多くなった。

2) 授業形態の違いによる授業内容の理解について

学修面では、昨年同様、授業形態による学生の主観及び理解度についても聞いていた。これらも昨年度同様の結果となった。まず、授業形態についての考えを聞いたところ、「遠隔と対面のどちらも授業は問題なく受けられた (62.4%)」が一番多く、昨年同様である。しかし、次に多い「遠隔で授業を受けるのはつらく、対面授業が良かった (24.0%)」、そして、「対面で授業を受けるのはつらく、遠隔授業が良かった (8%)」という結果は、逆転しており、昨年度全学年での集計との違いが見えている。しかし、昨年度のデータを学年ごとにみると、3回生（今年度の4回生）は、今年度と同じ結果となっていた。つまり、入学してすぐに遠隔を経験した4回生に関しては、どちらの授業形態でも問題なく受けられたけれど、やはり遠隔よりも対面が良いと思っている。それらは、次の授業形態による理解度についての結果にも示されており、「遠隔授業の方が理解した (15.2%)」を「対面授業の方が理解した (54.4%)」が大きく超えるという結果となっている。遠隔授業に関しては、教員も慣れない中で教材を作った初期の遠隔授業を受けた学生と、ある程度慣れ、質があがった教材で遠隔授業を受けた学生とで、遠隔授業の考えが異なることが示唆された。

3) 部活・サークル活動について

部活・サークルの4年間の活動について、「活動できなかった」、「どこにも所属しなかった」の2項目で9割近くにもものぼる。さらに、サークル等に所属しても「ほぼ制限があり満足に活動できなかった」と感じている。「入学当初に希望していたことで、コロナ禍のためにできなかったことがあるか」を問うたが、一番多かった回答が「サークル・部活 (56.8%)」だったことから、4回生にとってサークル・部活ができなかったこと、制限付きで満足にできなかったことは、大いに心残りであったことがうかがえる。

一方、課外活動については、「課外活動に参加しなかった (43.2%)」が一番多いものの、次いで「制限が多かったが実施することができた (27.2%)」、「ほとんど制限することなく実施することができた (15.2%)」と続き、教員が引率する活動については、比較的制限が緩やかで実施できたことがわかる。

4) 学生生活を支えるアルバイト等について

経済状況について一番苦しかった時期は、「2020年度の1回生の時 (31.2%)」だと感じており、コロナ禍初期の外出もできず、アルバイトもできなくなっていた時期と

重なるため、経済的にも苦しい思いをしたことが確認できる。ただ、次に多い回答が、「苦しかった時期はない（26.4%）」であり、全体の3割弱ではあるが、可能なアルバイトを探したり、仕送りや公的支援等を利用したり、乗り切ったりしたことに、現代の学生のバイタリティを感じるができる。

5) メンタルヘルスの状況

メンタルヘルス面では、ある一定数、継続的に不安定な学生がいる。このことには留意が必要である。長期化するコロナ禍での医療機関やカウンセリングの受診について、「受診していない（72.0%）」が一番多いものの、「迷ったが受診しなかった（14.4%）」と「受診した（8.8%）」を合わせると、23.2%もの学生が、メンタルヘルス面で問題を抱えていたと言えるだろう。また「回答しない（4.8%）」という無回答の学生も、これまでの調査のなかで最も多い。約4年間で一番不安だった時期については、「2020年度の1回生前期（30.4%）」、次いで「今年度の4回生前期（18.4%）」となっており、不安を抱えるのは、コロナ禍初期の時期と、就職活動・卒論執筆の時期であった。就職活動や卒業研究等でストレスを抱える学生への対応は、このコロナ禍の影響を受けた学年であることに留意しながら行うべきであろう。

(3) 未来のこと「これからの大学対応や社会人になる上で思うこと」

1) 将来、再び災害が起きたときに大学に期待すること

そして、災害時に対する今後の大学対応を尋ねた回答では、コロナ禍初期を経験している4回生ならではの回答となった。「遠隔授業への切り替えの迅速さ（64.8%）」、「遠隔授業の内容の充実（52.0%）」の項目で5割以上の学生が選択しており、回答者は、遠隔授業への初期対応に最大の不満を抱えていたと察せられ、実際、大学は遠隔授業への移行を円滑に行うことができなかった、ということであろう。現在の教員は、数年にわたり遠隔授業を経験したことにより、授業内容や課題の質の向上をはかることが可能になった。また、現在では遠隔授業の提供体制を比較的整えることができてきている。ただ、こういった要望は一様ではないため、今後、災害等の不測の事態が起きた場合には、今回の回答にあった学生の声を活かし、少数者への配慮も必要だということと言うまでもない。

2) 卒業後の不安について

対象者は4回生であり、来年度から9割以上の学生が社会人となることから、「社会人となる来年度以降のことを考え、現在、不安に感じることはあるか」聞いた。最も多かった回答が「職場での人間関係に関すること（45.6%）」であった。コロナ禍の

大学生活での影響は、社会人になってからのスムーズなコミュニケーションや協調性等の社会性については、学生の懸念事項となっていることが推測される。

7. おわりに

今年度、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことに伴い、収束はしていないものの、実質的には、コロナ禍以前の生活に戻つつある。愛媛大学も同様であり、2022年4月から原則対面による授業に切り替えられ、今現在も続いている。ようやく学生がキャンパスライフを満喫することができる喜びの一方で、やはりメンタルヘルス面では懸念される事項はあり、約3割弱の学生に精神面の支援が必要になっていることがわかる。今後、手記の募集や座談会を開催し、学生・教員双方の生の声を収集・保存していきたい。また、本調査に回答した学生の9割は、来年度から社会人となる。コロナ禍の大学生活を過ごした大学生が、社会人となってから、今後どのような社会性を身に付けていくのか等、縦断的な調査もしていきたい。

謝辞

今回、アンケート調査に携わって頂きました法文学部の教員、ならびに回答頂きました学生の方々に感謝の意を表します。

また、この研究は、令和5年度法文学部戦略経費及び JSPS 科研費19K21723の助成金交付により遂行されたものです。

-
- 1) 青木理奈・鈴木静・福井秀樹・小佐井良太・石坂晋哉「コロナ禍における法文学部の被災記録の収集と保存Ⅲー2020年度学生手記の分析ー」『愛媛大学法文学部論集第51号』（社会科学編），pp. 93-111. 2021年9月.
 - 2) 青木理奈・鈴木静・福井秀樹・小佐井良太・石坂晋哉・太田響子・池貞姫・十河宏行・中川未来「コロナ禍における法文学部の被災記録の収集と保存Ⅵー2021年度学生手記の分析ー」『愛媛大学法文学部論集第53号』（社会科学編），pp. 37-58. 2022年9月
 - 3) 青木理奈・鈴木静・福井秀樹・小佐井良太・石坂晋哉・太田響子・池貞姫・十河宏行・中川未来「コロナ禍における法文学部の被災記録の収集と保存Ⅸー2022年度学生手記の分析ー」『愛媛大学法文学部論集第55号』（社会科学編），pp. 75-94. 2023年9月
 - 4) 青木理奈・鈴木静・福井秀樹・小佐井良太・石坂晋哉「コロナ禍における法文学部の被災記録の収集と保存Ⅱー2020年度学生座談会報告書ー」『愛媛大学法文学部論集第51号』（社会科学編），pp. 117-138. 2021年9月.
 - 5) 青木理奈・鈴木静・福井秀樹・小佐井良太・石坂晋哉・太田響子・池貞姫・十河宏行・中川未来「コロナ禍における法文学部の被災記録の収集と保存Ⅴー2021年度学生座談会報告書ー」『愛媛大学法文学部論集第53号』（社会科学編），pp. 133-150. 2022年9月
 - 6) 青木理奈・鈴木静・福井秀樹・小佐井良太・石坂晋哉・太田響子・池貞姫・十河宏行・中川未来「コロナ禍における法文学部の被災記録の収集と保存Ⅷー2022年度学生座談会報告書ー」『愛媛大学法文学部論集第55号』（社会科学編），pp. 133-146. 2023年9月

コロナ禍における法文学部の被災記録の収集と保存X

資料 【2023年度】 コロナ禍における法文学部学生の学修・生活への影響アンケート

このアンケートは、2023年度法文学部戦略経費「コロナ禍における法文学部学生の被災記録の収集、保存―将来の災害に備えてのデータベース化と今後の課題―」の一環として、学生の学修・生活への影響をお聞きするものです。これは、学術目的の調査であり、後世に役立てるための記録として保存します。なお、今年度は、コロナ禍初期の遠隔授業を経験している4回生以上のみを調査対象とします。本調査の回答により収集された情報は、個人情報保護法にしたがって適切に管理されます。このアンケートは、原則匿名ですが、今後、手記を提供してくださる場合は、お名前と連絡先をお聞きたいします。アンケート内容や個人情報の取り扱いなどに疑義がある場合は青木理奈（*****@chime-u.ac.jp）にお問い合わせください。

本アンケート調査の回答にはおよそ5～10分かかります。ご協力の程、何卒よろしくお願いいたします。

代表 青木理奈・鈴木 静

必須

今回のアンケートは4回生が対象です。あなたは4回生ですか。*

- ☐ はい【次（属性について）のセクションへスキップ】
- ☐ いいえ【次（以上です）のセクションへスキップ】

【以上です】

このアンケートは4回生が対象のアンケートです。

このまづブラウザを閉じていただくか、下記、送信ボタンより終了してください。

ありがとうございました。

【属性について】

1. あなたは次のどれに当てはまりますか。*

- ☐ 一般学生
- ☐ 社会人
- ☐ 留学生
- ☐ その他（自由記述）

2. 性別を教えてください。*

- ☐ 男性
- ☐ 女性
- ☐ その他

3. 入学年度を教えてください（今年は2023年度です）*

- ☐ 2019年度入学以前
- ☐ 2020年度入学（現4回生です）
- ☐ 2022年度編入学（3年次編入生です）

4. コース等を教えてください。*

- ☐ 昼間主：法学・政策学コース、または、旧総合政策学科
- ☐ 夜間主：法学・政策学コース、または、旧総合政策学科
- ☐ 昼間主：人文学コース、または、旧人文学科
- ☐ 夜間主：人文学コースまたは、旧人文学科
- ☐ グローバル・スタディーズコース

5. 2023年度前期の居住形態を教えてください。*

- ☐ 1人暮らし
- ☐ 実家暮らし、または家族と同居
- ☐ 学生寮
- ☐ その他（自由記述）

6. 通学の手段を教えてください。*

- ☐ 公共交通機関（電車・バスなど）
- ☐ 徒歩
- ☐ 自転車
- ☐ バイク
- ☐ その他

7. 片道の通学時間を教えてください。*

- ☐ 10分未満
- ☐ 10分以上30分未満

- ☐ 30分以上1時間未満
- ☐ 1時間以上

これ以降、【A 現在のこと】は、現在2023（令和5）年度前期（1Q/2Q）のこと、続く【B 振り返り】は、コロナ禍初期の頃も振り返って、大学4年間についてお聞きします。

【A 現在のこと】

【学修面】

2023（令和5）年度前期（1Q/2Q）における法文学部と共通教育の授業についてお聞きします。

1. 今年度前期（1Q/2Q）、授業は何科目とりましたか。*

- ☐ 1 科目
- ☐ 2～5 科目
- ☐ 6 科目以上
- ☐ なし

【就職活動】

1. 卒業後の進路を決めるにあたって、実際にどのような活動を行いましたか。次の選択肢から選んでください。（複数回答可）*

- ☐ 公務員試験を受けた
- ☐ 民間企業の採用試験を受けた
- ☐ 大学院（進学）の受験をした、あるいは準備活動をした
- ☐ 大学院以外の専門学校等の受験をした
- ☐ 海外渡航（留学やワーキングホリデー等）するための準備活動をした
- ☐ 家業を継ぐことにした
- ☐ 起業する準備をした
- ☐ 何も活動しなかった
- ☐ その他（自由記述）

2. 公務員を含む就職活動を行った方にお聞きします。就職面接は、どのような方法でしたか？

- ☐ オンラインの方が多かった
- ☐ 対面の方が多かった
- ☐ オンラインと対面が半々
- ☐ 就職活動を行わなかった【次（課題活動面）のセクションへスキップ】

3. 「ガクチカ」（学生時代に力を入れたこと）として、どのようなことを話しましたか（複数回答可）*

- ☐ ゼミや講義内で取り組んだ内容
- ☐ 海外研修など課外活動で取り組んだ内容
- ☐ 部活やサークル活動の内容
- ☐ アルバイトや取り組んできた仕事の内容
- ☐ コロナ禍での経験した内容
- ☐ その他（自由記述）

4. 上記3で回答した内容を具体的に教えてください（自由記述）（任意回答）

5. 就職活動で、一番苦労したこと（困ったこと）は、どのようなことでしたか（一つだけお答えください）*

- ☐ 希望する職種や企業の情報が入手にくいこと
- ☐ 公務員試験講座が大変だったこと
- ☐ 就職説明会や就職試験会場までの交通費等の経済的負担
- ☐ オンライン面接やグループディスカッション等の試験方法
- ☐ 内定や内々定が決定するまで長かったこと
- ☐ 内々定が複数とれ、企業や自治体に採用を辞退したこと
- ☐ 就職期間中に相談できる人がほとんどおらず孤独になったり不安になったりしたこと
- ☐ 大学の講義やゼミとの両立を図ること
- ☐ 両親など家族と意見が合わないこと
- ☐ 担当教員に相談できなかったこと
- ☐ その他（自由記述）

【課外活動面】

フィールドワークが可能になったり、部活・サークル活動が活発化したことについてお聞きします。

1. 今年度の部活・サークルの活発化についてお聞きします。*

- ☐ どこにも所属していない（引退含む）

コロナ禍における法文学部の被災記録の収集と保存X

- ☐ 問題なく活動できている
- ☐ 制限があり満足に活動できていない
- ☐ 全く活動できていない
- ☐ その他（自由記入）

2. 課外活動（ゼミのフィールドワーク等）についてお聞きます。昨年までと比べて、あなたが参加した課外活動はコロナ禍の行動制限なく行うことができましたか。*
- ☐ まったく制限なく実施することができた
 - ☐ ほとんど制限なく実施することができた
 - ☐ 制限が多かったが実施することはできた
 - ☐ 制限が多く実施することができなかった
 - ☐ 課外活動に参加しなかった

【生活面】

今年度（2023年度）の生活面についてお聞きます。

1. あなたにとって規則正しい生活は出来ていますか。*
- ☐ できている
 - ☐ ほぼできている
 - ☐ あまりできていない
 - ☐ 全くできていない
2. 上記1の回答は、数年続いた遠隔授業が多かった期間の影響がありますか。どの程度、影響がありますか。*
- ☐ おおいに影響がある
 - ☐ 少し影響がある
 - ☐ あまり影響はない
 - ☐ 全く影響はない
3. 今年度、学修以外の大学生活や大学生活以外で、困ったことはありますか。（複数回答可）*
- ☐ アルバイトを探しているが見つからない
 - ☐ アルバイトに入る日数が多く負担であること
 - ☐ 結局、友人が作れない、作りにくかったこと
 - ☐ 友人や親しい人たちと会う機会が少なくなったこと
 - ☐ 友人や親しい人たちと会う機会が多く負担であること
 - ☐ マスク等の感染対策について周りが不十分だと感じる
 - ☐ 体調がすぐれないこと
 - ☐ 物価高で支出が増えて負担であること
 - ☐ 実家からの仕送りが減少したこと
 - ☐ 困っていることはない
 - ☐ その他（自由記述）

【B 振り返り】

これ以降の設問では、あなたが入学した2020年4月のコロナ禍初期から2023年現在までの大学生活についてお聞きます。

約4年を振り返り（3年次編入生は法文学部に入学してからの約2年間）、お答えください。

【学修面】

1. 1回生前期から4回生前期までで一番成績が良かった時はいつですか（単位数や秀優良可の評価、GPAを判断基準にしてください）。*
- ☐ 1回生前期
 - ☐ 1回生後期
 - ☐ 2回生前期
 - ☐ 2回生後期
 - ☐ 3回生前期
 - ☐ 3回生後期
 - ☐ 4回生前期
2. この4年間で授業は「遠隔」と「対面」を経験されたかと思いますが、約4年間（編入生は約2年間）の遠隔授業で**一番良かったこと**を教えてください。（一つだけお答えください）*
- ☐ 通学にかかる時間、通学準備の時間がなかったこと
 - ☐ 非同期型では、自分の都合にあわせて計画的に受講できたこと
 - ☐ 非同期型では、分からないところを繰り返し聞くことができた
 - ☐ 同期型では、周囲の雑音がなく授業に集中できたこと

- ☐ 授業の担当教員に相談しやすかったこと
- ☐ 予習、復習にかける時間が増えたこと
- ☐ 友達と相談しあって取り組めたこと
- ☐ 良い点はなかった
- ☐ その他（自由記述）

3. 約4年間（編入生は約2年間）の遠隔授業で**一番困ったこと**はどのようなことですか。（一つだけお答えください）。*

- ☐ 生活リズムが崩れやすいこと
- ☐ 課題が多かったり、課題の提出時期が重なったこと
- ☐ 非同期の授業はいつでも受講できるため後回しになり、やる気が起きなかった
- ☐ 授業科目により授業方法（同期型または非同期型等）や教材提供方法（Moodle またはメール等）が異なり、分かりにくかったこと
- ☐ 教員に質問や相談ができなかったこと
- ☐ 通信環境の関係で、同期型の授業受信が不安定だったこと
- ☐ 同期型授業が受講できる教室を探すのに苦労したこと
- ☐ 友達が作れなかった、作りにくかったこと
- ☐ 一人で受講していると孤独だったこと
- ☐ パソコン画面を見る時間が長く、目の疲れ、肩こり、腰痛、体力低下があったこと
- ☐ 学生が発言する機会がない、ほとんどなかったこと
- ☐ 教員に相談がしにくいこと
- ☐ どのように勉強するのかわからなかったこと
- ☐ 困ったことはなかった
- ☐ その他

4. 約4年間（編入生は約2年間）の対面授業で**一番良かったこと**はどのようなことですか。（一つだけお答えください）。*

- ☐ 友達が作りやすいこと、交友関係が広がったこと
- ☐ 生活にメリハリがつき、大学生生活にやる気がでたこと
- ☐ 授業に集中できること
- ☐ 授業で学生が発言する機会があること、多いこと
- ☐ 教員に質問や相談しやすいこと
- ☐ 教室で他学生とともに受講するので、孤独感がなかったこと
- ☐ 大学に通学するので、生活リズムが作りやすいこと
- ☐ 体調悪化や精神的な不安が少なくなったこと
- ☐ どのように勉強するか悩んだり不安になることが少なくなったこと
- ☐ 良かったことはなかった
- ☐ その他

5. 約4年間（編入生は約2年間）の対面授業で**一番困ったこと**はどのようなことですか。（一つだけお答えください）。*

- ☐ 通学にかかる時間、通学準備の時間が必要になったこと
- ☐ 時間割通りに授業が行われ、アルバイトなどほかの用事が行いにくくなったこと
- ☐ 教室に他学生がおり、周囲の雑音が気になり授業に集中できなかったこと
- ☐ 授業の担当教員に相談しにくいこと
- ☐ ほかの用事も増え、予習、復習にける時間がとりにくいこと
- ☐ 遠隔授業から対面授業に切り替わった時に慣れず、気も使い疲れることが多かったこと
- ☐ 授業が長く感じ、疲れること
- ☐ 困ったことはなかった
- ☐ その他

6. 約4年間（編入生は約2年間）を振り返り遠隔授業や対面授業について、あなたの考えに近いものを教えてください。*

- ☐ 遠隔と対面のどちらも授業は問題なく受けられた
- ☐ 遠隔で授業を受けるのはつらく、対面授業が良かった
- ☐ 対面で授業を受けるのはつらく、遠隔授業が良かった
- ☐ 遠隔も対面もどちらの授業も両方つらかった

7. 約4年間（編入生は約2年間）を振り返り、授業の理解度は、遠隔と対面のどちらの方が高かったですか。

- ☐ 対面授業のほうが理解した
- ☐ 遠隔授業のほうが理解した
- ☐ どちらも変わらない

【課外活動面】

1. あなたが、これまで所属していたサークルや部活についてお聞きます。

コロナ禍における法文学部の被災記録の収集と保存X

コロナ禍での影響による活動制限について教えてください。*

- ☐ これまでどこにも所属しなかった
- ☐ 問題なく活動できていた
- ☐ 制限があり満足に活動できなかった
- ☐ 全く活動できなかった
- ☐ その他（自由記入）

2. これまでの課外活動（ゼミのフィールドワーク等）についてお聞きします。あなたが参加した課外活動はコロナ禍の行動制限なく行うことができましたか。

- ☐ まったく制限なく実施することができた
- ☐ ほとんど制限なく実施することができた
- ☐ 制限が多かったが実施することはできた
- ☐ 制限が多く実施することができなかった
- ☐ 課外活動に参加しなかった

3. 高校生の時や入学当初に希望していたことで、コロナ禍の行動制限のために、あなたができなかったことはありますか（複数回答可）

- ☐ インターンシップ
- ☐ 海外留学
- ☐ 海外研修
- ☐ 国内研修やフィールドワーク
- ☐ サークル・部活
- ☐ 大学以外の社会活動
- ☐ できなかったことはない
- ☐ その他（自由記述）

【生活面】

1. 約4年間（編入生は約2年間）のあなたの経済的な状況についてお聞きします。あなたが大学生活を送るのに、一番苦しかったり辛かったりした時期を教えてください。（一つだけお答えください）*

- ☐ 1 回生（2020年度）
- ☐ 2 回生（2021年度）
- ☐ 3 回生（2022年度）
- ☐ 4 回生（現在）
- ☐ 苦しかった時期はない
- ☐ その他

【体調面】

1. 約4年間（編入生は約2年間）のあなたのメンタルヘルスについてお聞きします。大学入学時からこれまでで、一番不安定だと感じた時期はいつでしたか。*

- ☐ 1 回生前期（2020年度）
- ☐ 1 回生後期（2020年度）
- ☐ 2 回生前期（2021年度）
- ☐ 2 回生後期（2021年度）
- ☐ 3 回生前期（2022年度）
- ☐ 3 回生後期（2022年度）
- ☐ 4 回生前期（2023年度）

2. 長期化するコロナ禍でのメンタル不調により、2020年度以降から現在までで、医療機関やカウンセリングに行ったことはありますか。

- ☐ 受診した
- ☐ 受診していない
- ☐ 迷ったが受診しなかった
- ☐ 回答しない

3. 長期化するコロナ禍での身体への不調についてお聞きします。なお、新型コロナウイルス感染症は除きます（複数回答可）。

- ☐ 発熱
- ☐ 頭痛
- ☐ 腹痛
- ☐ 腰痛・ぎっくり腰など腰の不調
- ☐ 首・肩こりなど首肩の不調
- ☐ 視力悪化など目の不調

- ☐ 睡眠障害
- ☐ 怪我
- ☐ 身体不調はなかった
- ☐ その他

【これからの大学対応について】

1. 今後、対面授業が行えないような災害や不測の事態が起きた場合、大学はどのように対応したらよいと思いますか。（複数回答可）
- ☐ 遠隔授業への切り替えの迅速さ
 - ☐ 遠隔授業の内容の充実（動画や会議システム Zoom 等の活用）
 - ☐ 遠隔授業の際の課題の指示や内容の明確さ
 - ☐ 遠隔授業の際の成績評価の明確さ
 - ☐ 授業や生活支援に関する情報の一元化
 - ☐ 授業担当教員への質問のしやすさ
 - ☐ 生活担当教員への相談のしやすさ
 - ☐ 教育支援課や就職支援課への相談のしやすさ
 - ☐ 経済的支援
 - ☐ 通信環境が整わない学生への通信器具貸し出し等の支援
 - ☐ カウンセラー等の常設
 - ☐ 特別な対応は必要ない
 - ☐ その他（自由記述）
2. 卒業後、就職する方にお聞きします。社会人となる来年度以降のことを考え、現在、不安に感じることはありますか。（複数回答可）
- ☐ 仕事の技術に関することや専門知識に関すること
 - ☐ 職場での人間関係に関すること
 - ☐ 給料、労働時間の長さや福利厚生に関すること
 - ☐ 長い期間働き続けられるかどうか
 - ☐ 現在のところ不安はない
 - ☐ 卒業後に働く予定はない（大学院進学など）
 - ☐ その他

【追加で協力して頂ける方】 謝礼：クオカード3,000円

4回生の皆さんは、コロナ禍一年目の入学生ということもあり、振り返っていただくと、いろいろな思いがあふれるかと思います。本プロジェクトでは、4回生の皆さんにコロナ禍での大学生生活の記録を手記として1,200字程度まとめていただきたいと希望しています。手記をお寄せいただいた方には、謝礼（クオカード3,000円分）をお渡しします。お引き受けくださる方は、青木と鈴木（下記の宛先）までメールにてご連絡ください。連絡頂いた学生さんには、後日、青木から依頼のメールを致します。

宛先：青木理奈：*****@chime-u.ac.jp、鈴木静：*****@chime-u.ac.jp

件名：「コロナ禍における法文学部学生の手記について」

本文：お名前をフルネームで書き、こちらから連絡しても良いメールアドレスを正しく書いてください。

質問は以上です。ご回答ありがとうございます。